

平成 30 年度第 3 回公立大学法人公立諏訪東京理科大学教育研究審議会議事録

日 時 平成 30 年 10 月 5 日 (金) 15:30~16:35

場 所 6 号館 2 階第 1 会議室

出席者 河村議長、小越委員、松江委員、五味委員、奥原委員、木村委員、大島委員、市川委員、吉本委員、大崎委員、西沢委員、奥村委員、伊藤委員、井中委員
(入江事務部長、牛山事務部次長、石黒総務課長、加藤教務・学生支援課長、伊藤教務・学生支援課係長)

[配付資料]

1. 大学入学者選抜改革に係る 2021 (平成 33) 年度入学者選抜の変更について (予告)【案】
(資料 1-1)
2. 大学入学者選抜改革に係る 2021 年度入試の変更について (資料 1-2)
3. 平成 33 年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告 (資料 1-3)
4. 大学入学共通テストの枠組みにおける英語認定試験及び記述式問題の活用に関するガイドライン (資料 1-4)
5. 「共通テスト」の英語試験に係る認定試験等の利用の考え方 (資料 1-5)
6. 教育研究施設整備計画について (資料 2)
7. 公立諏訪東京理科大学と競合大学 (工学 機械/電気/情報系) の入試難易度ランク (前期日程) について (資料 3)

[前回議事録確認]

前回議事録について、議長、松江委員、奥村委員により内容を確認したことの報告があった。

[議 事]

1. 議長・学長挨拶

河村学長から、審議に先立ち挨拶があった。

併せて、公立諏訪東京理科大学開学後の経過について、県内高等学校との連携協定締結や学生の海外研修を実施したこと、新たに広報誌を制作したこと等について報告があった。

2. 会議内容

(1) 大学入学者選抜改革に係る 2021 年度入試の変更について

加藤教務・学生支援課長から資料 1 をもとに、「平成 33 年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告 (文部科学省、平成 29 年 7 月 13 日)」に示された趣旨に準じて、本学においても 2021 年度以降の入学者選抜方法を見直し、その方針を公表する必要がある

ことから、①学力の3要素、②調査書の活用、③大学入学共通テストにおける記述式問題の活用、④英語認定試験の扱い、⑤個別学力検査における記述式問題の出題、の5項目について基本方針を定め、入学者選抜方法の変更予告を公表すること、詳細については今後検討し、各年度の入学者選抜要項にて順次公表することについて説明があった。このことについて西沢委員から、高等学校現場としてはできる限り踏み込んだ情報を公表してほしいという思いもあるが他大学の公表状況を考慮すると十分な内容ではないか、また、伊藤委員からは、現段階で詳細を公表しても現場が追い付かないので本内容は本学の入学者選抜の意思表示として十分ではないかとの意見が出された。その他、英語認定試験の活用については、基礎的な英語に苦手意識を持たないことが大切であるものの本学の学生にとっては工学の専門知識を身につけることが重要であるのではないか、大学で学ぶにあたり必要となる能力を評価すべきではないか、また、入学者の追跡調査を行い現状を把握したうえで入学者選抜における評価レベルを設定すべきではないか、等の意見が出され、今後の入学者選抜における課題が共有された。審議の結果原案どおり承認され、今回のご意見も付言しつつ学内会議に諮ることとなった。

(2) 教育研究施設整備計画について

河村議長から資料2をもとに、学部学科再編に伴う工学系研究室の増加および大学院生増加計画に対応できる研究環境を整備すること、今年度新設した地域連携研究開発機構の活動に対応できる施設を設けることを目的として、2018年度入学者が卒業研究に着手する2021年4月前までに新9号館を建設することおよびその概要について報告があった。

(3) その他

加藤教務・学生支援課長から資料3をもとに、2018年9月現在の河合塾予測偏差値について、7月本会議で報告した数値と比較し、機械電気工学科の前期日程B方式におけるセンター得点率が3パーセント減少したこと、全国的な傾向として情報工学系の人気が続いていること等について報告があった。

最後に、次回の教育研究審議会は2月8日(金)に実施を予定していることが確認され、今回の議事録確認者として西沢委員、五味委員の2名を河村議長が指名した。

以上